

自ら知を磨き 徳を高め 体を鍛える 児童の育成



# 風の子

涌谷町立涌谷第一小学校  
学校だより No.5  
平成30年6月19日(火)  
文責・教頭 山田

## 本に親しみましょう

6月の朝会

6月8日(金)の朝会では、千葉校長が子供たちに話をしました。

運動会では、皆さん一人一人ががんばる姿を見ることができました。1年生から6年生までが、一つとなってそれぞれの種目に取り組むことができました。とても立派でした。

でも、結果によっては、満足のいかないことがもしかするとあったかもしれません。しかし、それまでに努力したということは、皆さんの力になったはずです。目標に向かって努力するという気持ちをこれからも忘れずに続けてほしいと思います。

さて、今週は「読書まつり」がありました。図書委員さんが中心になって、本の読み聞かせやスタンプラリーなど、楽しい企画をしてくれました。

みなさんは、家で本を読んだり、休み時間に図書室から本を借りてきたりしていますか。

さて、ここで皆さんに質問です。小学生が1か月あたり、(図書室から)本を借りる冊数はどのぐらいだと思いますか。

答えは11冊だそうです。毎月、平均して11冊を小学生は、本を借りて読んでいることになります。皆さんはいかがでしょうか。

元気よく外で遊ぶことも大事です。同じように、どんどん本を読むことも大事です。ぜひ机の中に1冊本を常に入れておいて、本に親しんでほしいと思います。

子供に対して「本を読みなさい！」という言葉は、どの家庭でも多く言われていることだと思いますし、読書の大切さについてはだれもがうなずくところでしょう。

では、読書の大切さとはどういったところにあるのでしょうか。

「読解力がつく」「集中力がつく」「想像力がつく」「作文力がつく」「知識を得る」など、様々な良い点が身に付くと言われていています。

特に、「読解力」は小学生の場合、国語科だけではなく、全ての教科で必要な力となります。例えば、算数の授業では、問題文を読むときに、その場面が頭の中に思い描けるか、また、必要な数値を頭の中で選び、取り出せるか等、算数の力の土台となります。

また、「集中力」「想像力」については、次のようなことが言えます。本の世界というものは、子供の創造力をはぐくむ豊かな土壌です。また、子供たちは、好きなことを見付けると、時間を忘れて集中して取り組みます。好きな本を見付けて読むという行為は、探求する集中力にまでつながります。知らず知らずのうちに、知識も増えていきます。

そう考えると、好きなものを見付けることが集中力の原点であり、それと知識量とは読書と密接に関係しているといえるのではないのでしょうか。読書をすることで付く力は、このほかにもあるかもしれません。いずれにしても、本に親しみ、本を読むことが好きな子供たちにしたいものです。



6月4日(月)に、全校一斉に地域奉仕作業を行いました。

地域にある公共施設を清掃する活動を通して、子供たちに地域の一員であるという自覚をもたせ、力を合わせて働くことの尊さや喜びを体得させることを目的とした活動です。

当日は、全校で開会行事を行った後、それぞれの学年で清掃活動に入りました。

ひだまり広場、涌谷駅、中央公園など、主にゴミ拾いや除草を行いました。子供たちはビニール袋を手に、一生懸命に作業に取り組むことができました。



【涌谷駅をきれいにする6年生】

## 目標に向かって

5年生・夢の教室

5月29日(火)、本校で「夢の教室」を開きました。

JFA(日本サッカー協会)こころのプロジェクトが行っているもので、様々な競技のスポーツ選手などを「夢先生」として学校へ派遣していただくことで、「夢を持つことやその夢に向かって努力することの大切さ」「仲間と協力することの大切さ」などを子どもたちに伝えることを目的としています。

今年は、元Jリーガーである安永聡太郎さん、そして、トリノオリンピック(2016年)出場など、日本スノーボード界をけん引してきた鶴岡剣太郎さんをお迎えしました。

安永さんからは、体育館で実際に体を使ったゲームを通して、「自分で考えること」「周りの友達と力を合わせて目標を達成すること」など、教えていただきました。

続いて、鶴岡さんからは、ご自身の小学生の頃のお話や夢をもつようになったきっかけ、夢をつかむまでの話を熱く語っていただきました。

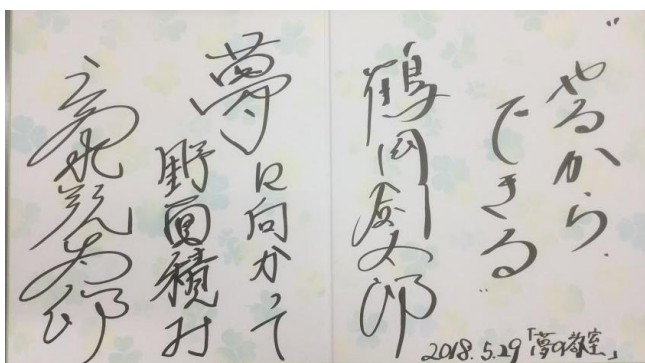
子供たちも、夢中になって体を動かしたり、話を聞いたり、将来の夢に向かって前進していくことの大切さについて考えることができたようです。



【よく考えてすばやく動こう！】



【成功・失敗いろいろありました】



← 【お二人からメッセージ(色紙)をいただきました】

